

このチラシは、伊丹市議会議員「相崎佐和子」が、市政情報などをお届けしているニュース紙です。

毎月発行（年4回はA3・その他はA4）しており、ポストイング・駅やスーパーマーケット前での配布・郵送などでお届けしています。



議会改革の先進自治体へ！～議会運営委員会の視察～ 相崎佐和子

11月5～6日、**議会運営委員会**で視察に行きました。「視察内容はしっかりご報告して市政に活かす」なるモットーに基づき、ご報告いたします。

■宮城県議会 ～議会改革が進んでいる理由は？！～

1日目は宮城県庁にて、**宮城県議会の議会改革について視察**しました。宮城県議会は「議会改革度調査ランキング」※で常に上位に位置する、議会改革の先進自治体。議会改革では「これを取り入れていたら進んでいる」という判断項目がいくつかあるのですが、宮城県議会はほぼ抑えています。実際の取り組み内容とともに、議会改革を進めようという雰囲気（改革が進むか否かは実際ここが大きく影響する）を見聞したく、視察に訪れました。



※「議会改革度調査（早稲田大学マニフェスト研究所）」において、2011年は全国1位、2012年は全国5位。

宮城県議会で議会改革が進んだ背景。事前に想像したのは、**改革派の首長だった浅野史郎元知事の影響**かと。知事がドンドン改革を進め、議会もそれに対応すべく改革を進めたのではないかと。他にも改革派首長を経験した都道府県議会（e.g. 北川元知事の三重県議会・片山元知事の鳥取県議会）も、議会改革先進県です。

そこで改めて「なぜここまで議会改革が進んでいるのか」と直球で質しました。「浅野元知事の影響もあります。対議会が是々非々だったので、議会も対応を迫られたのは間違いありません。また1期目の改革推進派の議員が一気に増えた時期があったり、浅野知事時代の議長が改革に熱心だったり、ということもあります」とのこと。**様々な要因が相乗効果となり、改革が進んだ**ようです。

もう1つ聞きたかったのが「議会内で一致団結して改革を進めていけたのか？」ということ。議会改革は議員間・党派間で温度差があり、**熱心な議員もいれば慎重な議員もいます**。ゆえに一枚岩で進めることが難しく、**伊丹市もこの温度差が一番のネック**です。

宮城県議会いわく「確かに一枚岩になるのはうちでも難しい。ただ熱心な議員たちがリーダーシップを取ってドンドン引っ張っている」とのこと。**伊丹市議会では私が引っ張っていく議員の1人になろうと改めて決意**しました。

具体的な取り組みとしては、以下の項目が印象に残りました。

- 請願者本人による説明**：伊丹市議会では現在、請願は提出された請願書を読んで判断しています。宮城県議会は提出者本人が公の場で説明する仕組み。実施する議会も増加中。伊丹でもぜひ。
- 傍聴者アンケートの実施**：議会の傍聴者にご意見を書いていただく取り組み。伊丹市議会では取り扱いの煩雑さを懸念してペンディングになった案件。実施したい。
- 当局側の反問権**：当局側が議員に逆質問する「反問権」。伊丹市議会では現在、質問内容の確認のみ反問権を認めています。これでは反問というよりただの確認。宮城のように反問の範囲を拡大し、当局と議論の応酬をしたいところです。

議会改革の目的は、**議論できる仕組みを整えること・市民に開かれた議会にすること**それを進めるのは、**議会内の気運を高めること**。改めて実感しました。

